

あしたの教育を考える

教育最前線

Education Vanguard

第8号

[特集]

アクティブ・ラーニングと 令和の日本型学校教育

●総論

溝上慎一

学校法人桐蔭学園理事長
桐蔭横浜大学学長・教授

野村公郎

東京都立富士高等学校統括校長

福西茂樹

京都府南丹市立園部中学校校長

大塚愛実

桐蔭学園小学校教諭



主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング)を基礎にして 「個別最適な学び」「協働的な学び」へ



Mizokami Shinichi

溝上 慎一

(学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学学長・教授)

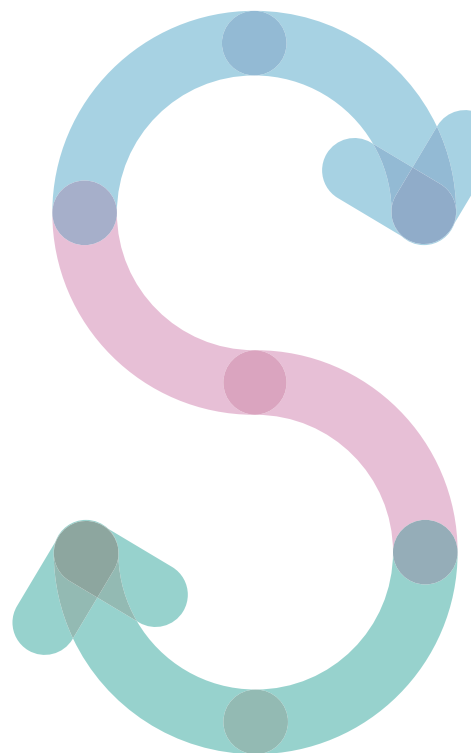
本稿では、求められる学びが、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を踏まえてどのように意義を説くものかを中心に説明していく。

「主体的・対話的で深い学び」を着実に実施する、とするだけで十分な時期であるが、そこに間髪入れずに新しい学び「個別最適な学び」「協働的な学び」が求められるわけである。いったいなぜだろうか。

2021年1月26日に、中央教育審議会から『令和の「日本型学校教育」の構築を目指して』すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現（答申）（以下、「答申」あるいは「令和の日本型学校教育答申」と呼ぶ）が答申された。学校における働き方改革、GIGAスクール構想の推進を行い、新学習指導要領を着実に実施して、「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現していくことが謳われている。



はつぎ



第1節

「令和の日本型学校教育」提起の 動機は何か？

提言の内容を、私なりの理解で最大限簡潔にまとめると次のようなものになる。

新型コロナウイルスの感染拡大（以下「コロナ禍」）により露呈した、とくにSociety5.0に向けてのICT活用をいっそう充実させるため、そして、これまで課題となっていて十分に取組めていない問題（子供たちの多様化、教師の長時間勤務による疲弊、少子高齢化・人口減少等）を整理し併せて解決を図るため、新学習指導要領を着実に実施しつつ、2020年代を通じて「令和の日本型学校教育」を実現する。

令和の日本型学校教育で大きく提起されるSociety5.0への対応は、第四次産業革命はもとよりAIやIoTといった技術革新の到来が、すでに『平成28年答申』（注1）で再三説明されている。Society5.0への対応自体は実質的には新しいことではなく、それを差し引くと、令和の日本型学校教育を提起する新たな動機は、コロナ禍によって露呈した日本の学校教育におけるICT活用の脆弱さを改善することにあると言える。

しかし、すでにGIGAスクール構想でICTのハード面の整備は進んでいるので、Society5.0に連動させて「個別最適な学び」の推進としてICT活用のソフト面を提起したいと考える。すでに新学習

指導要領で「主体的・対話的で深い学び」の実施を求めているので、それに加えての「個別最適な学び」であると釘も刺しておく。「個別最適な学び」は日本の学校教育が長年取り組んできた「個に応じた指導」にも対応するものであり、それ自体は決して新しい学びの提起ではないと説明される。そして、個別最適な学びが孤立した学びに陥らないよう「協働的な学び」が加えられ、連動すべきものとされる。

以上を、日本がとくに戦後重視してきた、児童生徒の知・徳・体を一体で全人的に教育する「日本型学校教育」の中で捉え直し、それにSociety5.0に対応した「個別最適な学び」、そして「協働的な学び」を令和時代の発展型として位置づけ、大きく提起することにする。

二点補足しよう。

コロナ禍以前から、日本の子どもの学習におけるICT活用の脆弱さが問題視されていたことは、「令和の日本型学校教育」を理解する上で非常に重要な文脈である。OECDのPISA調査の結果からは、日本の子どもはゲームやSNSなどではスマホなどのデジタルデバイス（ICT機器）を多く利用するものの、教室内外での学びではデジタルデバイスをほとんど利用していない、OECD諸国の中で最低の順位であると報告されていた（注2）。2020年4月から始動した「GIGAスクール構想」（児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備すること）は、このような経緯で予算化・施策化されたものであった。承知のように、2020年3月から5月にかけてコロナの

感染拡大が進み、多くの学校が臨時休校を余儀なくされた。このため、もともと5年計画で進める予定であったGIGAスクール構想は、巨額な補正予算をつけて一年で実現されることとなった。このことも答申に影響があっただろうと推測される。GIGAスクール構想はあくまでICTに関するハード面の整備であるから、ソフト面の施策を『令和の日本型学校教育答申』で示そうとしたのである。

もう一つの補足は、答申に向けての審議で、当初「個別最適な学び」が「個別最適化された学び」として検討されていたことである。承知の通り、「個別最適化学習」は、AI（人工知能）を搭載した「adaptive learning（アダプティブ・ラーニング）」の訳語である。過去の履歴やネットワーク上の膨大なデータから成るビッグデータを用いて最適解を導き出し、個々人の最適化された学習プランや問題などを提供する学習システムを指す。なぜ「個別最適化」ではなく「個別最適」な学びになったのかは後で述べるとして、最終的に答申で示された「個別最適な学び」という用語が、ICT活用と関連づけて登場したことは知っておいていい。

第2節

個別最適な学びとは

令和の日本型学校教育の中核概念は「個別最適な学び」である。「個に応じた指導」を学習者の視点から整理した用語とされる。これまで通りの単なる「個に応じた指導」ではなく、現代課題としてのGIGAスクール構想を踏まえたICT活用を加え、

かつ、これまでの課題（家庭の経済事情の考慮など）にも併せて取り組む「個に応じた指導」、児童生徒の「個別最適な学び」の充実が求められている。そのため、不十分ではあっても1学級40人の上限人数を35人に引き下げる少人数学級化（令和3年4月）なども併せて進める。

答申では次のように説明されている。

個別最適な学び

- 「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念。
- 新学習指導要領では、「個に応じた指導」を一層重視し、指導方法や指導体制の工夫改善により、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが示されており、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要。
- GIGAスクール構想の実現による新たなICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要。
- その際、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開し、個々の家庭の経済事情等に左右されることなく、子供たちに必要な力を育む。

（『令和の日本型学校教育答申』、【概要】スライド2）

一点補足である。

第1節で述べたように、「個別最適な学び」はもととAIにおける「個別最適化」概念を参照しており、審議過程の前半では「個別最適化された学び」と称して議論されていた。しかし、AIの「個別最適化」は、言い換えれば、確率計算で自動的に算出される最適解のことを指す。その意味では、「個別最適化された（児童生徒の）学び」が、たとえばAIドリルを用いて、自動的に個々人への最適な学びへと促されるようなイメージのみで受け取られてはいけない。そのようなAIドリルの学習もあっていいが、本質的には児童生徒が自己調整をして、自身に合った「個別最適な学び」を自分で作り出していくことが重要である。そのような自律的な学習者へと育つように、教師は「個に応じた指導」を行うことが求められている。「個別最適化された学び」から「個別最適な学び」へと修正された流れは、このようなことであつたと理解される。

なお、『平成28年答申』で示された資質・能力の三つの柱の一つである「学びに向かう力・人間性等」の中には、「主体的に学習に取り組む態度」が含まれている。主体的に学習に取り組む態度は、「学習に関する自己調整を行いつながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかどうか」（『令和の日本型学校教育答申』P.17）を捉えて評価していくものとされており、観点別評価の視点ともなっている（注3）。「個別最適な学び」は、この「主体的に学習に取り組む態度」の推進とも密接に関連していることも付け加えておく。

第3節 「対話的な学び」と「協働的な学び」の違い

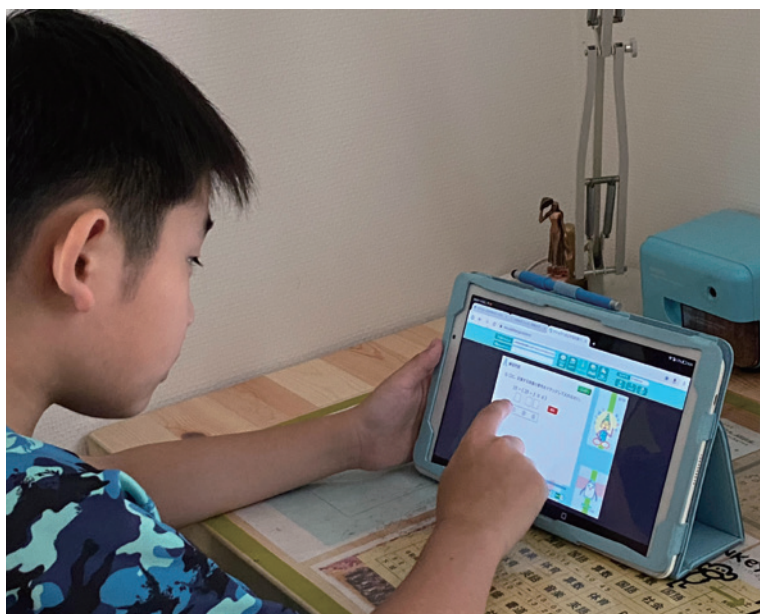
新学習指導要領で「対話的な学び」がすでに提起されているにもかかわらず、『令和の日本型学校教育答申』では「協働的な学び」が提起された。両者は果たしてどのように異なるものなのか。

両資料の説明を見比べてわかることは、どのような対話の質を目指すかという点ではほとんど同じだということである。はつきり読み取れることは次の2点である。

①『令和の日本型学校教育答申』において、「対話的な学び」と「協働的な学び」は同じものであるとも異なるものであるとも、何も説明はされていないこと。

②『令和の日本型学校教育答申』では、「対話的な学び」は独立して扱われておらず、「主体的・対話的で深い学び」として扱われ、「協働的な学び」は「主体的・対話的で深い学び」に繋げて取り組まれるものと説明されていること。

ここからは筆者の理解であるが、おそらく「協働的な学び」の指す範囲は「対話的な学び」をより社会や人生に繋げて発展させる学びを指すものと考えられる。つまり、協働的な学びにおいても、教室での学びはもちろん大きな前提としているのだが、それにとどまらず、時に児童生徒の地域・社会との関係、キャリアや人生形成にまで拡げて取り組まれる



ものと考えられているように思われる。

そもそも『令和の日本型学校教育答申』はコロナ禍の影響を強く受けて提起されており、『平成28年答申』よりもはるかに予測困難な社会、Society5.0を前面に出して児童生徒の学びが説かれている。「主体的・対話的で深い学び」は、どちらかと言えば、教師にとつては授業の工夫・改善のため（『平成28年答申』P.49）、児童生徒にとつては授業の中での学びの視点であつた。たとえ対話的な学びの中に「地域の人との対話」や「先哲の考え方」が含まれていようとも、それは主として授業や教育活動の一環としてのものではあつたと考えられる。それに対して「個

cooperative learning

対話的な学び

協働的な学び

collaborative learning

探究的な学び

STEAM



全体指導での
対話的な学び



ペア・グループワークでの
対話的な学び



別最適な学び」「協働的な学び」は、そのような授業や教育活動の一環としての学びを前提としつつも、学びの場や対象を家庭、地域、社会、キャリア、人生へと最大限に拡げている。答申でも「協働的な学

び」の具体的な活動例は「探究的な学習や体験活動など」とされている。

以上を踏まえて、「対話的な学び」「協働的な学び」の関係を図表1のように理解してみよう。つ

まり、「対話的な学び」は、授業やそれに関連する学習を中心とし

つつ、教育活動全般における他者や集団との対話・対人関係を総合的に指すものである。それに対し

て「協働的な学び」は、「対話的な学び」を基礎としつつ、その中でも教室の空間を越えたより社会、

より人生に開かれた活動における対話・対人関係を指すものである。英語で「対話的な学び」を表現

すれば、cooperative learningが近いと考えられる。児童生徒個々人の「協同性（cooperation）」を

高めることが、他者の考えに開かれて自身の考えや理解を発展させることに繋がり、さらには対人関係やコミュニケーション力を培う

ことにもなる。実質的に「対話的な学び」で求められるのはそのよ

うなものである。他方で「協働的な学び」の英語は、collaborative learningに近いと考えられる。異

なる考えを持つ個人同士がチームやプロジェクトを組んで、一つの

図表1 「対話的な学び（cooperative learning）」と「協働的な学び（collaborative learning）」との関連

課題に取り組んで仕上げていく。そのようなチームやプロジェクトでの仕事や作業は、いま社会で強く求められている。個々人の「協同」としての対話力を基礎として、チームやプロジェクトにおける課題を「協働」で取り組んでいく、問題解決していく、そこに「協働的な学び」の「対話的な学び」では表しきれない対話・対人関係があるのではない。

（注1）中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（2016年12月21日）

（注2）文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査（PISA2018）のポイント」（2019年12月3日）https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf

（注3）国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）』（2019年6月14日）

*本稿で扱う理論や概念の最新の説明は、ウェブサイト「溝上慎一」の教育論（<http://smizok.net/education/>）にあります。併せてご覧ください。



PROFILE

大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年より京都大学助手、講師、准教授、教授を経て、2018年9月に桐蔭学園へ。京都大学博士（教育学）。専門は、発達・青年心理学、教育実践研究。

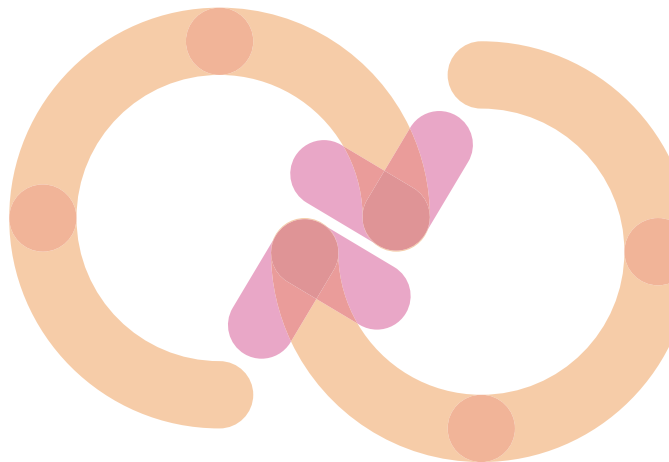
STREAMS教育におけるSTEM人材育成



Nomura Kimio

野村公郎

(東京都立富士高等学校統括校長)



富士高等学校では、確かな学力を身につけさせるとともに、科学技術が進展する社会において、必要とされる論理的思考力や批判的思考力等を育成して、新たな価値を創出する探究的な学習に重点を置き、その中核に、STREAMS教育（STREAMSにRoboticsとSportsを加えた）を位置づけ、中高6年間を一貫通貫した教育を実施しています。STREAMS教育は、STEM教育の考え方に、文部科学省認定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組、東京都教育委員会から指定を受けている「英語教育推進校」「スポーツ特別強化指定校」「文化部推進校」の取組、そして、探究学習である学校設定教科「富士未来学」の取組を発展させた教育プログラム（富士メソッド）です。

来年度から高等学校では新たな学習指導要領が年次進行で実施され、観点別評価の本格的な導入も行われます。ここでは、組織的な体制づくりと、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学び」への取組事例を紹介します。



1 全校体制の構築 プロジェクトチームから分掌組織へ

2019年度に、新学習指導要領実施に向けて検討しなければならない事項を整理したうえで、組織的に問題解決に取組むプロジェクトチームを発足させた。富士未来構想プロジェクトチームの検討事項は、グランドデザイン、教育課程の編成、観点別評価の方法等である。そして、検討事項の課題を解決するための組織として、既存の分掌組織を見直し、教務



2 学校設定教科「富士未来学」の取組

情報部、生徒支援部、進路学力部、探究・SSH部、グローバル・スマート開発部、庶務広報部と分掌を再編成した。また、SSH企画運営会議、富士未来構想委員会、授業力向上委員会、IR評価委員会を組織し、全校体制で実行するようにした。外部との連携組織では、SSH運営指導委員会、学識経験者や起業家・卒業生等で組織する富士未来構想サポートチーム、評価に関する検討・検証するIR評価外部委員会を立ち上げた。今後は、外部との連携を強化し、より一層組織的な取組を行うとともに、学習指導計画と評価計画等を示したシラバスを策定する。

本校は、平成22年に附属中学校が併設された当初から、学校設定教科として「探究未来学」を設置し、探究学習に取り組んでいる。平成28年には、東京都教育委員会から理数アカデミー校に指定され、理数教育に関する最先端教育プログラムを開発した。この教育プログラムをSTREAMS教育と称して、確かな学力を身につけさせる教科学習（リベラルアーツ）とともに、科学技術が進展する社会において、必要とされる論理的思考力や批判的思考力等を育成して、新たな価値を創出する探究的な学習に重点を置き、STEM人材を育成してきた。その成果が認められ、今年度、SSHに指定された。これを機に、探究未来学を「富士未来学」とし、すべての生徒が6年間を貫く課題研究「富士未来学」に挑戦することとした。



先行研究調査結果を発表する第1学年の生徒(高校)



ラボ研究成果を発表する第2学年の生徒(高校)

SSH研究開発の目的は、「挑戦力」「理数的発見力」「理数的解決力」を兼ね備え、新たな価値を創造する科学的グローバルイノベーターである「富士山型探究者」を育成することであり、全校生徒が「理数探究」を履修し6年間を貫く課題研究「富士未来学」に挑戦する、中高一貫理数教育カリキュラムの実践とその効果検証を目標とする。

富士山型探究者とは、「幅広い裾野のような理数の素養をもっている人」「空を突き抜けるほどの探究心をもっている人」「尖った科学的な改革心をもっている人」「富士登頂を果たした後にも新たな山に挑戦し続ける人」であると定義づけた。

下の図のように、「富士未来学」を通じて、課題研究に取り組み課題解決を図る過程において、協働的に学習をしたり、WEBを活用し「自」の課題研究に沿った内容を調査・検証する個別最適な学びをしたりする中で、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を実践している。

6年間を貫く課題研究「富士未来学」中高一貫理数教育カリキュラム

富士未来学Ⅰ 中1・35時間 総合的な学習の時間 「探究とは何か」 仲間とともに観察したことについて発表する。 「探究とは何か」をテーマに討論活動することをおして6年間の富士の学びの頂点に向かい大志を抱く。	富士未来学Ⅱ 中2・35時間 総合的な学習の時間 課題研究の基礎力 統計学の基礎を学び、ICTを活用し、根拠を数値で示す方法を学ぶ。研究倫理を学び、参考文献の引用の仕方を身に付ける。	富士未来学Ⅲ 中3・70時間 総合的な学習の時間 ブレ課題研究 ゼミ体制 基礎的な探究活動をゼミに分かれて行う。ブレ課題研究で探究の方法を学ぶ。発表することでプレゼンの力を身に付ける。 【富士山の五合目に到達する。】	富士未来学Ⅳ 高1・2単位 理数探究 専門的な課題研究ラボ体制 自らの研究テーマの設定を行う。自ら興味・関心をもった分野についてICTや図書を活用して文献を調査し、研究テーマについて質疑をとおして検討する。	富士未来学Ⅴ 高2・2単位 理数探究 課題研究の発信ラボ体制 専門的な課題研究を行う。海外探究研修で、英語で現地の学生に説明する。研究内容を論文にまとめる。 【富士山の八合目に到達する。】	富士未来学Ⅵ 高3・1単位 理数探究 英語論文・ポスターラボ体制 研究活動の集大成として論文を仕上げる。英語で研究要旨を作成し、研究を英語ポスターにまとめる。 【富士山登頂を達成する。】
---	---	--	--	---	--

3 外国語(英語)を活用した 交流事業における事例

ICTを活用した交流事業で、協働的な学習や個別最適な学習に取り組んでいる。他校との交流事業としてコラボレーション企画を行い、英語によるディ

- ① 学習アプリを活用した協働版コンテンツのディベーター用紙の内容について両校で共有する
- ② 自己紹介動画とディベーター実践を通じて相互にコメントを共有する
- ③ 相互の共有内容から学習の振り返りとまとめを行う

であり、生徒は主体的に取り組んでいる。

4 まとめ

新学習指導要領の実施を控え、スクールポリシーやブランドデザインの見直し、学習指導計画と評価計画の策定等に取り組んでおり、特に、生徒の資質・能力を効果的に身につかせ、伸ばす方法としての「主体的・対話的で深い学び」をどのように展開するか、そして、個別最適な学びと協働的な学びをどのように捉え実現するのが課題である。本校の事例が、課題解決に少しでも寄与することを願います。

PROFILE

昭和37年生。長崎県立長崎東高等学校卒業、東京学芸大学卒業。昭和60年度から都立高校教諭(南平・国分寺)、平成12年度から八王子市教育委員会指導主事、都教職員研修センターや都学校経営支援センター、教育庁指導部、人事部管理主事等16年間教育行政に従事。教育改革推進担当課長では、新国際高校設置、小中高一貫教育校内容検討等担当。平成31年度から現職。

生徒主体の学習を積み重ねる ——「気づき」があり「心が動く」学び——



Fukinishi Shigeki

福西茂樹 (京都府南丹市立園部中学校校長)

教育メッセージ

「気づきがあり 思いがあり 頑張れる あの 園部中学校」

1 今年度の本校における重点

- 学習指導要領の完全実施に伴い、「心が動く」授業づくりと、信頼される評価を実践しよう。
- 生徒理解の基本は「共感」からである。生徒の変化に気づき事象の背景や家庭状況も理解した上で、将来につながる指導を心がけよう。
- 特別な支援を必要とする生徒が増加傾向である。その生徒たちの社会的自立に向けた支援を行うとともに、彼らを受け入れる集団を育成しよう。
- 新型コロナウイルス感染症については、事前に人権に配慮した言動の大切さを指導するとともに、このコロナ禍において「学びを止めない」ために何ができるかを考えよう。
- 今年度当初の職員会議で、これらを職員に示すとともに、何より「先生方自身が笑顔で気持ちよく、そして本気で働ける職場を目指したい。そのために、まずは『一点突破』です。」と訴えた。

◆ 学習サイクル

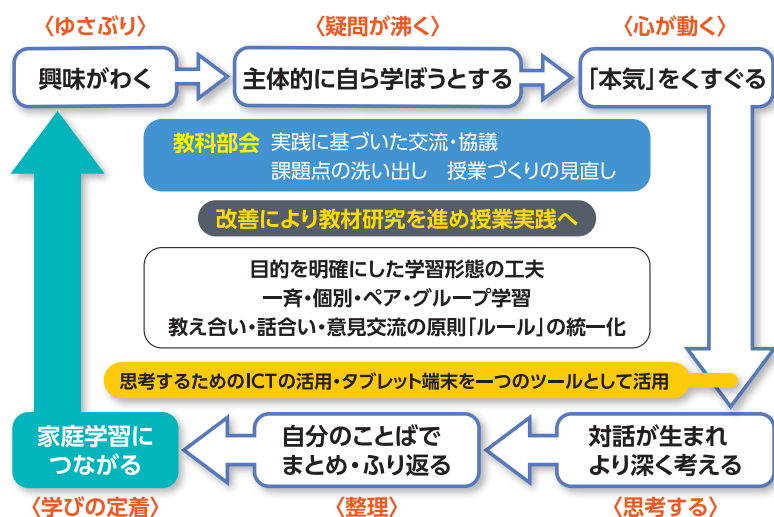
昨年度まで、文部科学省や南丹市教育委員会の指定制を受け、また桐蔭学園の溝上慎一先生の指導を受けながら、「主体的・対話的で深い学び」について、研究を進めてきた。今年度は、これまでの研究を土台にして、研究主題を「ICTを活用した思考力・表現力の育成」とし、校内の研究推進委員会を中心に、授業の質的な改善と生徒の学習サイクルの定着を柱に取組を進めている。

2 個別最適な学びへ

◆ アクティオ（スケジュール）手帳の活用

本校では、全校生徒に『アクティオ手帳』という学生専用に作られているスケジュール帳を持たせて、自己管理能力の育成を図っている。毎週金曜日には週末の過ごし方や次週の見通しを持たせるための時間も作っている。学習や部活動、習い事などのスケジュールを管理するとともに、学習についての振り返りや調整にも活用する生徒も出てきている。

「主体的・対話的で深い学び」の充実につながる学習サイクル



◆月1回の教科部会

授業づくりの視点として、従来の「どのように教えたら理解させることができるか（教授パラダイム）」から、「どのようにすれば、生徒が学び取ろうとするか（学習パラダイム）」への転換を改めて確認した。学期毎に行っている公開授業週間を利用して、根気強く取組を進めていきたい。また、授業における「心が動く」「思考する」場面設定について、教科部会で確認し実践を始めている。

◆朝学習テスト

水曜日を除く週4日間、5教科の基本的な学習内容の定着を図る目的で実施している。内容は、漢字や英単語から、既習内容を範囲指定して出題したり、CBTを導入したりして、基礎的な内容の定着、指導の個別化を図っている。

◆GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の活用

南丹市の配慮で、今年2月には生徒全員が端末を使えるよう準備いただいた。教員も懸命に研修を繰り返し、授業での活用が日常になりつつある。決して端末を使うことが目的にならないよう留意しながら、『ロイロノート・スクール』などを有効に使って、全ての子どもの可能性を引き出すとともに、思考や発表のツールとして少しずつ広がりを見せてきている。



◆園部中学校ブロック校種間連携推進協議会

南丹市内の小中学校は、授業において統一して日付、回数、めあての表示と、振り返りの「4点セット」を全教科で明示している。この取組に加えて、園部中学校ブロック全体で指導者の話や仲間の発言をしっかり聴く「傾聴」の姿勢の大切さを指導してきており、その成果が現れ始めている。また従来から意識してきた「非認知能力」にも改めて注目し、データをとりながら取組を進めようと考えている。



3 協働的な学びへ

◆社会科における実践

社会科では、エキスパート学習・ジグソー学習・ワールドカフェを取り入れた学習を行っている。これは、端末を利用して効果的な場面で、生徒の深い学びに繋げる授業形態の一つとして取り入れている。これにより、生徒の対話的な学びの様子を客観的に見取ることができるとともに、生徒が考えを発表する機会も増え、少しずつ表現力が高まってきている。また、授業を通して感じた気づきや学びを、振り返りシートに端末で入力して提出させている。生徒の思考時間の増加に繋がっている反面、キーボード入力に慣れていなくて時間がかかる生徒も一定数いるのが課題である。

◆コミュニティ・スクール

毎年一年生を対象にして「防災」をテーマにした学習を行っている。ここでは、学校運営協議会が中心となって、社会福祉協議会や地域の防災委員とも連携した取組として定着してきている。豪雨時の体験談から避難所での生活の疑似体験も含めて学ばるとともに、生徒目線で「中学生の自分たちに、普段からどのようなことができるか」を地域の方とも一緒に協働的な学びに繋げている。これにより、防災意識を高めるとともに、地域の人の温かさに触れ、「思いやりの心」などを育む地域道德の機会にもなっている。



4 終わりに

本校の取組を支えているのは、他ならぬ教職員の姿勢である。生徒を途中で見放すことは決してせず、それぞれ「思い」を持って粘り強く生徒に関わり続ける強みがある。この関わりが信頼を構築し、生徒たちも簡単に諦めることなく最後まで粘り強く学習に取り組む力に繋がっていると考えている。指導者が「気づき」と「思い」を持って、生徒主体の学習になるよう少しでも工夫した学習を積み重ねさせることが私たちの使命だと考えている。

PROFILE

昭和60年、当時は校内暴力で荒れる中、数学の教員として採用され、以来37年間で5つの中学校と教育委員会を経験した。本校は、教諭、教頭時代を併せて6年目になる。趣味は、ランニングと温泉、蝶が大好きな59歳。

シンキングツールの活用

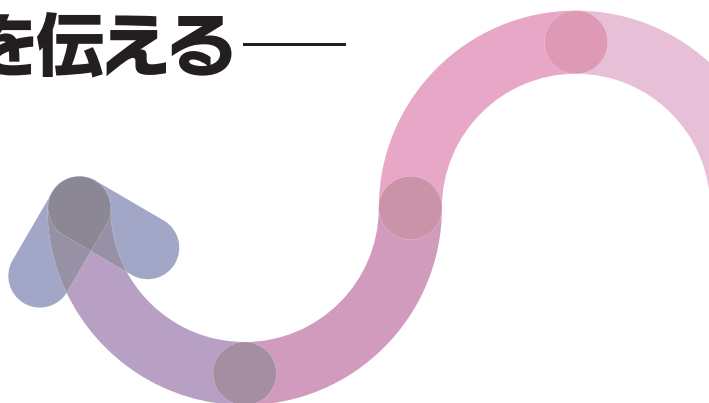
— 思考を可視化し、想いを伝える —



Ohtsuka Manami

大塚愛実

(桐蔭学園小学校教諭)



桐蔭学園小学校では、『真の「生き抜く力」を養い、使命感溢れるリーダーとして、主体的、能動的に未来を開き、世の中に貢献できる人材の育成』を目標に、2年前から改革を始めました。個・協働・個のアクティブ・ラーニングを基盤に、「6つのキーコンピテンシー（思考力・チャレンジ力・創造力・メタ認知力・思いやり・エージェンシー）」を育成するため、各キーコンピテンシーに対して具体的にカリキュラムを組んで授業や日常の活動、学校行事等に取り組んでいます。そして、「思考力」の育成で力を入れている取り組みが、今回ご紹介する「シンキングツールの活用」です。シンキングツールは、GIGAスクール構想、中教審答申『令和の日本型学校教育』（2021年1月）でも求められているICT活用の実践でもあります。



「伝えたい」という想いをサポートするツール

思考力育成の入り口は、それぞれが「伝えたい！」という想いを抱くことです。その想いが膨らむと、「わかりやすく伝えたい！」と思うようになり、さらに工夫をするようになります。そんな子どもたちを手助けしてくれるのが、シンキングツールです。私たちは考えるときに、『比較する』『分類する』『関連づける』などの思考パターンを使っています。自分の考えを図式化した「シンキングツール」に当てはめて考えることで思考が可視化され、考えをつくり出したり深めたりすることがスムーズにできるようになります。子どもたちの「主体的・対話的で深



い学び」を実現するために、本校ではタブレット端末を用いて、学校全体でシンキングツールを活用しています。導入にあたっては、

A. シンキングツールを活用できる場を多く用意すること。

B. シンキングツールを子どもたちが活用してよかったと実感を得ること。

C. シンキングツールで思考を可視化したことで、子どもたちの学びが深まること。

この3つを踏まえ、「シンキングツールタイム（T3）」「教科学習」「行事」において、シンキングツールを活用しています。

2

シンキングツールタイム(T3)

特に特徴的なのが、シンキングツールタイム(T3)の導入です。各学年で週に1〜2回、ホームルームの朝学習の時間に実施しています。身近なテーマについてシンキングツールを使って考えながら、ツールの使い方を楽しく身につけていきます。

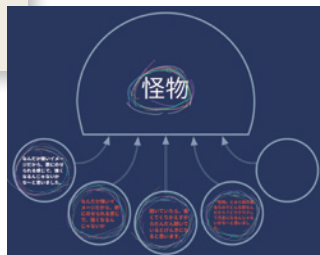
「ドラえもんの道具を一つ使えるところだろが、いい?」「自分を文房具に例えろ?」「友だちが元気になる曲をオススメよう」など、特定の正解がないテーマを設定することで、子どもたちは自分の考えを自由にのびのびと書くことができます。

げんきになる曲「怪物」

理由

私は怪物の曲を聴いたら、曲の「強く強くなりたんだよ」と言うシーンでいつも「強く強く」のところで「強く」なので、まず、なんだか元気になります。だから、友達も元気になるかなーと思いました。強いイメージだから、歌にのせられる感じで、強くなるんじゃないかなーと思いました。次に、聴いていたら、長くてくりかえすから、だん元気になると思います。最後に「怪物」という歌の題名なのでどんな歌なんだろう?とワクワクして元気になるんじゃないかなーと思いました。

児童が書いた文章



クラゲチャート

『ロイロノート・スクール』を使用した実践事例

まずはテーマに対して自由に作文します。次に、シンキングツールを使って、文章中に書いた情報の整理をし、新たな考えが出てきた場合には書き加えていきます。ここで子どもたちの思考が動き出します。最初に書いた文章を整理することで、「足りない観点があった!」「具体例が必要だった!」「自分の挙げた話題と関連した事例が他にもあった!」など、テーマに対して多角的に考えることができるのです。最後に、シンキングツールを使って気づいたことを踏まえて文章を推敲していきます。

上の図の文章の黒字の部分が最初に児童が書いた部分で、赤字の部分は学習支援アプリ『ロイロノート・スクール』のクラゲチャートを使って思考を整理した後に書き加えたものです。クラゲチャートを用いたことで、最初は理由が1つだったところが4つに増えました。また、類似内容をまとめたり、接続詞を用いて伝える順番を工夫したりしていることもわかります。このように、シンキングツールを使うことで、考えの拡散・構築→整理→再構築という流れを踏んだ自己調整が実現しました。子どもたちが自分の変化を実感しやすいため、前向きに取り組める「個別最適な学び」の充実を図ることができるようになりました。

この取り組みを行った後、子どもたちから「みんながどんな曲を紹介しているのか知りたい!」という声が挙がりました。そこで、クラス全員の書いた回答を共有して説得力があると感じた文章を探し、友だちの心をたくさんつかめた紹介文の曲から給食の時間のBGMにして楽しみました。その後、「もっ

と理由を多く書けばよかったかな」「もっと具体的に書けばよかったかもしれない」と話しくる子どもが多く、次に繋げようとする姿勢も見られました。主体的に練り上げたものを「対話的な学び」に繋げたことで、「深い学び」へと広がることできた一場面でした。こうしてそれぞれが自分から学び取ったことは、他教科での「協働的な学び」にも繋がってきます。

3 子どもたちの変化

この取り組みを始めて約1年、子どもたちには大きく3つの変化が見られます。一つめはアイデアがスムーズに出せるようになったこと、二つめは文章量が増加し、文章構造を意識するようになったこと、三つめは伝えることを意識して文章を書くようになったことです。T3の時間にシンキングツールの使い方に慣れていき、授業ではそれを活かして課題に対して考えを深めていく、という流れが構築されてきています。また、日常生活の中でもシンキングツールを活用して思考の整理をする子も現れ始めています。このような取り組みを積み重ねていくことで思考力を培い、シンキングツールがなくても予測不可能な未来で自分の意思を持って力強く羽ばたいていく子どもたちに成長していくことを願っています。

PROFILE

2008年より桐蔭学園小学校に勤務。本校教育推進部の一員として、シンキングツールを担当している。

伝統と信頼の「初級クラウン」がリニューアル! 新中学生の英語学習に最適!

中学校に入ったらすぐに役立つ辞書は卒業記念品にぴったり!!

三省堂の名入れ辞典

お求めやすい価格の
卒業記念用特製版 をご用意
しております。

校名箔押しサービス
致します!!

令和3年度
卒業記念
桜ヶ丘小学校

箔押しサンプル

詳しい内容
申込方法は
こちら▼▼



ジュニアクラウン
中学英和辞典

第14版 特製版

田島伸悟・三省堂編修所[編]
B6判 オールカラー 928ページ
定価1,200円(本体1,091円+税10%)



ジュニアクラウン
中学和英辞典

第12版 特製版

田島伸悟・三省堂編修所[編]
B6判 オールカラー 640ページ
定価1,200円(本体1,091円+税10%)

2022年4月
サービス提供開始予定

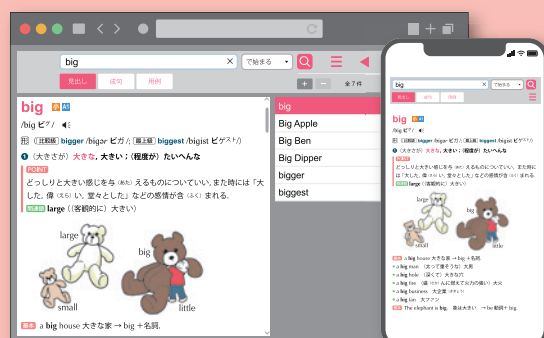
辞書のWebアプリが使える特典付き!

GIGA
スクール構想
対応



さらに使いやすく
さらに深める

Webアプリだから、どんなデバイスでも!



Chromebookを活用している学校現場でも!

ChromebookはGoogle LLCの商標です。

音声が聴けるから、
リスニングやスピーキング
の力がつく!



再生できる音声(例)
小学・中学必修語
発音のしかた ほか

ことまな+
Kotomana

カンタン2ステップ

- ① ID設定
- ② 辞書に封入の
シリアルコード入力

- ご利用にはインターネットへの接続が必要です。
- 1つのシリアルコードにつき、1ユーザーのご利用となります。
- スマートフォンやタブレット端末のご利用は、保護者や先生がたのご指導のもと行ってください。
- 画面は現在開発中のものです。変更となる可能性があります。

SSD三省堂

三省堂教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 TEL (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)